

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	◎	コンビニ（店員）	・気候が良くなって外出機会も増えるため、手軽に酒やたばこを買えるコンビニは利用が増える。価格帯は定番商品も少しずつ上がっているが、購入の動きには余り響いていない。
	◎	衣料品専門店（店員）	・これから気温が上がり、衣替えシーズンに入るため、購買意欲が高まる。
	○	商店街（代表者）	・気候が良くなり、人も増えることで、少し期待できそうな雰囲気がある。
	○	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・気候が良くなり、ゴールデンウィーク前には販売量の増加が期待できる。
	○	百貨店（売場主任）	・株価の乱高下などで景気の見通しが立たず、高額品の消費に慎重となっている客が多い。その一方、中東情勢の影響を受けつつも、今が景気の底であり、今後は回復に向かうとの見方もあるため、先行きに期待している。
	○	百貨店（外商担当）	・国際情勢や物価動向の変化で市場の波乱が予想されるが、外商客の富裕層やインバウンドの購買意欲は今後も堅調に推移するとみている。また、開業予定の商業施設には、ラグジュアリーブランドの売上などに大きな期待が持てる。
	○	スーパー（企画担当）	・春に向かって気温が上昇し、行楽や花見、新入学、新生活などの季節催事がめじろ押しとなる。米価格も5キロで2980円となるなど安値で安定し、販売数量が一気に増えている。野菜も相場安であるなど、主要商品の販売数量の増加により、売上全体の増加に寄与している。
	○	コンビニ（経営者）	・暖かくなり、高齢者の外出頻度が増えれば良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・温かい軽食商品を自分で取れるように、セルフ化を進めるほか、商品別の売上ランキングを表示して、販売を促進する。
	○	コンビニ（経営者）	・4月になれば、花見やイベントが増えてくるため、活気が出てくる。
	○	家電量販店（店員）	・家電については、エアコンの2027年問題や蛍光灯の製造中止などの影響を受け、販売量が増える見込みである。
	○	家電量販店（人事担当）	・今年の夏も早い時期に気温が高くなる予報であり、エアコン需要の動きも早期化する見込みである。ただし、気温が高くなり過ぎれば、外出が抑制される懸念もある。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・安定した気候となり、家族や複数人での食事会の増加が期待される。
	○	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・学生やインバウンドの人出が増加している。前年は大阪・関西万博の開催で、大阪や京都に人が集中する傾向がみられたが、当県などの周辺の観光地に人が流れることを期待している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・5月中旬から閑散期に入るものの、インバウンドの団体予約が継続的に受注できている。中国からの予約は先行き不透明であるが、欧州を中心に販売できている。一方、食堂や宴会部門については例年並みの見通しである。
	○	通信会社（社員）	・AIの普及に関連した、インターネット高速サービスの需要増加が期待される。
	○	競輪場（職員）	・グレードの高いG1レースを開催するため、客単価が上がる。ただし、世界情勢の影響で様々な商品が値上がりしているほか、円安も進んでおり、経済の先行きが不透明であるため、通常よりも動きは弱いと予想される。
	○	住宅販売会社（経営者）	・中東情勢の影響も懸念されるが、今のところは不動産業界への影響は限定的であり、しばらくは堅調な推移が期待される。
	□	一般小売店〔時計〕（経営者）	・世界を巻き込んでいる不安定な状況がいつ落ち着くのかが見通せず、明るい材料がない。現実に自らの生活への影響に直結するため、予断を許さない。
□	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・物価上昇の継続で、国内客の購買意欲がなかなか上向かない一方、インバウンド需要は予約も増えており、今後も好調が続く。	

<input type="checkbox"/>	一般小売店 [化粧品] (経営者)	・価格にシビアな客が低額商材にシフトする状況は今後も続く予想され、知名度のあるラグジュアリーブランドと低額商材の2極化は更に進む。報道などでは値上げの流れが出てきているが、客の心理としては、化粧品にコストを掛ける動きは増えにくく、ワンランク下の商品の需要が増えると予想される。
<input type="checkbox"/>	一般小売店 [手ぬぐい] (経営者)	・イラン問題で経営環境が良くないなか、景気がどう変化するか、予測が難しい。
<input type="checkbox"/>	一般小売店 [野菜] (店長)	・中東情勢の影響にどのように対応するかで変わってくる。今のままであれば悪化していく一方であるが、解決すれば、これまでの反動で良くなる。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (企画担当)	・免税売上は為替や航空料金の連動する一方、国内売上は株価に大きく連動しているため、今後の情勢は見通しが立ちにくい。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (企画担当)	・イラン情勢の変化による世界経済の不安定化で、消費の鈍化が予想される。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (広報担当)	・日中関係の改善への道筋もまだみえないなか、今回の国際情勢の変化による商品価格への影響が懸念される。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (サービス担当)	・原油価格が上昇するなか、物価への影響が懸念材料であるが、食料品フロアのリニューアル効果で一定の来客数が確保できる。また、新生活フェアの拡大も売上の増加要因となる。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (マネージャー)	・日中関係の変化による影響が2～3か月続いており、インバウンドの8割以上のシェアを占める中国人客が前年比で20%以上の減少となっている。その一方、国内客には前年を超える堅調な動きがみられる。このインバウンドと国内客の動きは数か月変わらず、今後数か月も大きな変化はないと予想される。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (管理担当)	・店舗の改装終了まで、しばらくは来客数の落ち込んだ状況が続く。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (販売推進担当)	・中東情勢の変化による株価の低迷で、景気への影響が懸念される。ただし、円安傾向でもあるため、インバウンド需要は安定的に推移する。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (売場統括)	・中東情勢の変化による、原油価格の高騰に端を発した物価の上昇で、生活防衛意識は高まっている。ただし、米国も早期解決に向けた姿勢を示しているため、影響は一時的なものにとどまる。足元の景気はやや悪化する可能性があるものの、2～3か月先は現状と同じ水準まで回復すると予想している。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (営業推進担当)	・世界情勢が不安定なほか、原油価格の高騰により、物価の動きに影響が出る可能性がある。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (販促担当)	・見通しは非常に不透明であり、イラン情勢の変化による大きな下振れもあり得る。一方、今夏も暑くなる予報であり、猛暑対応商材の提案が重要となるほか、夏物ファッションの展開も再構築が必要である。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (商品担当)	・不安定な海外情勢が落ち着くかどうかによって左右される。それに伴い、為替や株価が連動し、国内客の購買意欲やインバウンドの増減にも影響するため、現時点では判断しにくい。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (宣伝担当)	・4月以降は原油価格の高騰による航空料金の値上げで、インバウンドの更なる減少が予想される。新生活需要やゴールデンウィークの需要を取り込む準備をしているが、国内客の消費も値上げの影響で力強さを欠いており、厳しい状況が続く。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (マネージャー)	・外的要因による商品の値上げが続くものの、中間層には慣れもあり、購買動向に変化はないと予想される。物販と時間消費のバランスから、富裕層を含むイベントなどの内容が鍵を握る。一方、地域的にインバウンド消費の客単価が上昇する傾向は当面続くため、大きな変化はないと予想される。
<input type="checkbox"/>	スーパー (経営者)	・物価の上昇に対して、中小企業の賃上げが対応できていない。
<input type="checkbox"/>	スーパー (店長)	・物価の上昇が収まらない限り、上向き気配はない。賃上げも大企業のみであり、その他の企業には閉塞感がある。
<input type="checkbox"/>	スーパー (店長)	・競合店の増加や、物価の上昇が続けば、今の厳しい状態が続くと予想される。

<input type="checkbox"/>	スーパー（社員）	・今春も多くの企業で賃上げが見込まれており、当面は若い世代を中心に、消費意欲は高い状態が続く。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画）	・4月から子ども・子育て支援金の負担が始まり、節約志向は継続する見込みである。一方、足元の売上は前年比104%で、平均単価が101%と落ち着いてきたほか、購入点数も100%に戻り、来客数も回復している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	・今後も客の節約志向が続く。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・税制の変更は消費者にとってプラスであるが、地政学リスクから物価や原油価格が更に上昇すれば、景気が落ち込む可能性もある。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・自動車税の環境性能割の廃止を前に、3月の登録が4月にずれているが、全体的には現状維持と考えている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（役員）	・これまでの物価の上昇傾向や、高機能装備の追加による単価の上昇に加え、中東情勢の影響で経済情勢の不安定感も増している。そのような状況下では、新車購入のモチベーションはなかなか上がらない。数か月先に新型モデルの発表予定であるため、少し期待できるものの、経済情勢の不安定化が足かせになっている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・景気の先行きが不安なこともあり、大きな買物には慎重になる客が増えている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・4月からの値上げに伴うまとめ買いが多く、その際にはクーポンが必ず使用されるなど、消費者の生活はまだ潤っていない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・医薬品や健康食品の販売では、例年と比べて花粉症の影響が小さく、売上は鈍化している。一方、気温の上昇に伴い、カウンセリング化粧品などの売上は順調に推移しており、今後の春物商材への切替えによる売上増が期待できる。食品等の生活必需品も順調に推移しているが、来客数や買上点数の増加にはつながっていない。全体として客単価は上がっているが、大きな変動要因はみられないため、今後2～3か月も現状の推移が続く。
<input type="checkbox"/>	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・新カタログを発刊しても、受注量に変化のない状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（企画）	・当面は、インバウンド需要の減少を国内旅行の需要増でカバーする状況が続く。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・例年、季節要因もあって販売数量が増加する。
<input type="checkbox"/>	観光型旅館（経営者）	・先の予約は反応が悪いが、直近の予約は入っており、全体としては変わらない。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（客室担当）	・4～5月は欧米からのインバウンドの動きが大きいですが、まだ厳しい状況が予想される。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（管理担当）	・世界情勢が余りにも不安定である。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（客室担当）	・近隣のテーマパークが開業25周年を迎え、来客数は増加しているが、経費の高騰分の価格転嫁が難しい状況になっている。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（支店長）	・今年のゴールデンウィークは8連休と日並びも良く、長い場合は16連休ともいわれるが、申込み状況は良くない。今後、好転するようなイベントも少ないため、状況は変わらない。
<input type="checkbox"/>	通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・市場環境の変化に対し、取引先は様子見の状態である。
<input type="checkbox"/>	テーマパーク（職員）	・景気対策を実施するため、とにかく早期の予算成立が求められる。
<input type="checkbox"/>	競艇場（職員）	・賃上げや物価の上昇、海外情勢の変化に加え、政治による影響など、様々な要因がどのように作用するのか、見極めるのは難しい。
<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・物価上昇の影響か、コストをできるだけ抑える傾向にあるため、事業収益の拡大につながっていない。
<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球のシーズンが始まるほか、家族向けのイベントやコンサートも開催されるため、若年層を中心に多数の来場者が予想される。

□	美容室（店員）	・流行のデザインやメニューが出ない限り、余り変わらない。
□	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・良くなる材料が見当たらない。
▲	一般小売店〔雑貨〕（店長）	・ガソリン価格の上昇による影響が出る。
▲	一般小売店〔呉服〕（店員）	・以前であれば、自分の振り袖を娘に着せる場合、半襟は新しい物を購入するケースが一般的であったが、最近では半襟も含めて着用するケースが増えている。
▲	一般小売店〔花〕（店員）	・物価の上昇が続き、様々な影響で家計が圧迫されるため、生活必需品ではない花は買い控えの傾向が強まる。
▲	百貨店（売場マネージャー）	・海外情勢などをみると、現状よりも景況感は良くならない。消費環境を取り巻く物価上昇や、燃料費の高騰など、今後も先行きは不透明である。
▲	百貨店（外商担当）	・イラン情勢の先行きが全く見通せないほか、高級ブランドの相次ぐ値上げの影響で、客の購買意欲が減退していく。
▲	百貨店（商品担当）	・大阪・関西万博の閉幕による有形無形の影響が大きい。対策としては、好調の物産展の回数を増やし、キャラクター関連のコーナーを増やすなど、既存客の拡大を狙う。ただし、一時的に回復したインバウンド売上も、前年比では再び厳しくなる見込みである。
▲	スーパー（店長）	・石油関連製品の値上げやエネルギー資源の確保に向けた不安が、景気の悪化につながる。
▲	スーパー（店員）	・ガソリン価格は今後も上がっていくことが予想されるため、先行きは厳しくなる。
▲	スーパー（企画担当）	・原油の供給が先行き不透明なほか、原油価格の高騰による物価への影響も懸念される。
▲	スーパー（経理担当）	・中東情勢の問題について終息がみえないなか、賃上げ効果が物価の上昇で吹き飛ぶ可能性が高い。必然的に節約意識が高まり、売上の低迷や値下げ競争の激化につながるおそれがある。
▲	スーパー（販売促進担当）	・イラン情勢が落ち着けば、景気が上向き可能性もあるが、今のところはその兆しが無い。むしろ長期化の予想が大勢を占めており、現状よりも景気が悪化する懸念もある。そうなれば、消費税減税が行われても焼け石に水となる。
▲	スーパー（開発担当）	・中東情勢が不安定ななか、ガソリン価格が補助金の影響で下がっているものの、今後どうなるかは分からない。仮に石油が入ってこなくなれば、かなりの景気の悪化が考えられる。
▲	スーパー（企画）	・中東情勢の影響もあるが、紙製品などの売上が伸びている。中東情勢による国内経済への影響には高い関心がみられるなか、今後商品価格が上昇すれば、消費は大きく冷え込む。
▲	コンビニ（経営者）	・物価が全体的に上がる。
▲	コンビニ（店員）	・給料はほとんど増えていない一方、物価が上昇し続けているため、節約傾向が高まっている。
▲	コンビニ（店員）	・食料品やパン、弁当、おにぎりなどの値上げに続き、たばこまでが値上げとなり、客の節約意識が高まったことで、買い控えがみられる。
▲	衣料品専門店（店長）	・客との会話では、景気の悪化や生活の圧迫という内容も少なくないが、今後は中東情勢の変化による石油の輸入停滞などが不安視される。
▲	家電量販店（店員）	・中東情勢が良化しない限り、景気の回復は難しい。問題が長引けば長引くほど、景気は悪くなる。
▲	家電量販店（営業担当）	・イラン情勢や日中関係について、好転するめどが立たない。
▲	乗用車販売店（経営者）	・このまま原油価格が高騰し続ければ、個人消費が冷え込む。
▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が良化しなければ、原油相場の上昇は落ち着かないほか、将来的な不安によって消費に関心が向かないため、政府の新しい経済対策が求められる。
▲	その他専門店〔食品〕（経営者）	・多くの商品が中東情勢の影響を受けるため、消費が落ち込む。
▲	その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	・不透明感が漂っており、景気の先行きが不安である。

▲	一般レストラン（経営者）	・4月からの物価上昇やイラン情勢の変化により、今後は全ての物価の上昇が予想されるため、消費者の財布のひもは固くなる。
▲	一般レストラン（経営者）	・イラン情勢の変化による不安や、更なる物価上昇に加え、光熱費や燃料価格の上昇も懸念される。仕入価格も上がるため、消費者の財布のひもは固くなり、景気の鈍化が予想されるため、日常的な飲食店の利用は減少する。また、輸入状況も安定しないため、仕入れが不安な経営環境が続く。
▲	一般レストラン（店主）	・地方圏だけではなく、世界的に不安定な状況にあるため、観光地が様々な面で影響を受けている。
▲	一般レストラン（店員）	・物価上昇の影響により、今後景気が上向くことはない。
▲	一般レストラン（企画）	・中東情勢の変化や円安傾向により、値上げラッシュが予想され、消費者の購買意欲が低下する。また、原材料価格の高騰も見込まれるため、経営状況は更に厳しくなる。
▲	観光型ホテル（経営者）	・4月、5月は3月ほどの動きはない。今後の団体予約は悪くない状況であるが、特にゴールデンウィークの前半は団体客、個人客共に動きがなく、今年も苦戦する。
▲	観光型旅館（経営者）	・世界情勢の影響を受け、旅行に出掛ける雰囲気がない。
▲	都市型ホテル（客室担当）	・花見の時期以降、閑散期に入る。ゴールデンウィークは挟むが、大きな祭りやイベントは限られるため、インバウンドは影響なく取り込みそうであるが、国内客を満遍なく取り込めるかが課題となる。
▲	タクシー運転手	・新年度の初めは人が動くが、中東の海峽問題を受けた景気の悪化は避けられず、厳しい状況となる。
▲	通信会社（経営者）	・円安環境の継続が予想される。
▲	通信会社（社員）	・新年度からキャリア手数料が見直されるが、手数料収入は年々厳しくなっている。いかに販売台数を増やすかが課題であるが、最大の商戦である3月の繁忙期の後は、やはり販売数は落ちる。
▲	通信会社（役員）	・新年度を迎え、特定キャリアの3G停波に伴う特需が収束するほか、物価の上昇や不安定な世界情勢の影響もあり、消費者の購買意欲は減退に転じる。
▲	通信会社（営業担当）	・4月までは好調な販売量が続くものの、5～6月は90%に販売量が落ち着くため、やや悪くなる。
▲	遊園地（経営者）	・ガソリン価格の高騰を発端として景気が減速し、消費マインドも低迷する。特に、レジャー関連は支出削減候補として、上位に挙がるリスクがある。
▲	ゴルフ場（支配人）	・原油価格の高騰で燃料費は既にも上昇しており、今後は電気料金や仕入価格も更なる上昇が見込まれる。コスト増加分を販売価格に転換することが難しいため、景気はやや悪くなる。
▲	その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・ガソリン代や物価の上昇による、レジャーへの意欲低下を懸念している。
▲	住宅販売会社（経営者）	・建築関連の原価高騰による住戸価格の上昇で、住宅ローンが組めなくなっている。
▲	住宅販売会社（従業員）	・株価の下落や金利の上昇で、分譲マンションの売行きが鈍化してくれば、これまで価格の上昇が当たり前であった風潮が変化し、消費者が慎重になってくる。
▲	住宅販売会社（企画担当）	・中東の情勢が不安定なため、エネルギーコストが上がっている。
▲	その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介]（経営者）	・物価の上昇は今後も続くため、消費が減少する。
▲	その他住宅 [展示場]（従業員）	・住宅ローン金利の上昇のほか、インフレの傾向も当面続く。
▲	その他住宅 [住宅設備]（営業担当）	・世界情勢の変化による原油価格の上昇はどうしようもないが、何とか安定してほしい。
▲	その他住宅 [情報誌]（編集者）	・富裕層向けの販売はこれまで堅調であったが、世界的な不安定感の高まりで、今後は下押し圧力が働く可能性がある。また、実需物件では価格の上昇が続いており、購入が更に難しくなるなど、不動産の販売市場には不安要素がみられる。
×	一般小売店 [貴金属製品]（従業員）	・中東情勢の変化で、ガソリン価格や物価の上昇につながる。

	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・中東問題が長期化すれば、原油の確保が難しくなり、物価の上昇は必至となる。従来以上に不透明で、不安定な社会情勢を考えると、景気が更に悪化することは避けられない。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・エネルギー価格が上昇するなか、景気が良くなるとは考えにくい。
	×	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・中東情勢の変化による、原油価格の上昇で物価が上がり、消費が冷え込む可能性は高い。
	×	百貨店（売場主任）	・イラン情勢の変化による原油価格の高騰が懸念材料である。燃料費の上昇に伴うインフレが発生した場合、一気に景気への悪影響が出るおそれがある。
	×	百貨店（マネージャー）	・中東情勢が先行き不透明で、様々な物の価格が高騰すると予想されるため、貯蓄志向や生活防衛意識が高まり、高額品の買い控えが起きる。
	×	スーパー（店員）	・ガソリンを始め、全ての商品の値上がりが見込まれる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・これから洋服が売れない時代がくる。服のトレンドがパンツからスカートに変わってきたため、スカートは売れると予想されるが、スカートが売れるときは景気が悪くなるときでもあるため、注意が求められる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・世界情勢が安定しない限り、景気は上向かず、消費が活発化する環境が整う兆しもない。
	×	家電量販店（店員）	・あらゆる商品の更なる値上げが予想されるなか、そもそも現行の値上げ前の商品が売れていないことから、この先も厳しくなる。
	×	乗用車販売店（経営者）	・ガソリン価格が異常に上昇し、先行きが見通せない。価格の上昇がゴールデンウィークまで続けば、更なる景気への悪影響が出てくる。
	×	住関連専門店（店長）	・輸入業では、中東情勢の影響で、輸入コストの増加が必至である。これ以上の値上げを客が受け入れるかどうかの懸念もあるなか、売れにくい状況が加速すると予想される。
	×	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円安傾向が続き、地金相場が高騰したままでは、生活必需品の物価上昇と同様に、更なる値上げも考えざるを得ない。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・中東情勢の混乱がいつまで続くかが予想できない。混乱が長引けば、景気は一気に悪化する。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・物価上昇の影響か、A Iの導入による影響かは分からないが、根本的に何かが変わっており、来客数が急激に減少している。
	×	旅行代理店（役員）	・イラン情勢の変化により、欧州方面の旅行に対する影響が予想される。また、原油価格の高騰に伴い、航空各社で燃油サーチャージの大幅な引上げが予定されており、ゴールデンウィークや夏休みの海外旅行需要に対する、大きな影響が懸念される。
	×	旅行代理店（支店長）	・中東情勢の影響で国際線の欠航が長引き、ツアーの中止が続いているため、先行きは不透明である。
	×	観光名所（企画担当）	・回復する要素は現時点では見当たらないため、しばらく状況は変わらない。
企業 動向 関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業（経営者）	・世界情勢の影響を受けて、石油を始めとする全ての価格が上がり、予断を許さない状況になった。円安は今後更に進む気配で、輸入販売が中心の当社には不利に働く。ただし、新しい案件が何件か出てきているため、業況の改善が見込まれる。
	○	輸送用機械器具製造業（役員）	・受注価格が僅かながら上昇している。
	○	輸送業（営業担当）	・ガソリン価格が値上がりしているが、前年に荷物1個の運送に掛かったガソリン代は平均で5円にとどまるなど、輸送費に占めるガソリン代の割合は小さい。
	□	食料品製造業（管理担当）	・大きな変動要因はない。
	□	繊維工業（総務担当）	・催事での販売は、1日当たりの売上が減少している。今後は催事について、購入商品を身につけていく機会と位置づけることで、販売にもつなげていく。
	□	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・大阪・関西万博のような大きなイベントがないため、企業はやや守りの姿勢が続く。

□	化学工業（企画担当）	・原料価格は高騰しているが、販売価格に反映できており、利益は確保できている。中東の海峡問題の影響は未知数であるが、おおむねこれまでの傾向が続くと予想される。
□	化学工業（製造担当）	・全体的に研究費や助成金が絞られ、新規テーマの選別に慎重になる傾向は、短期的には変化しない。
□	プラスチック製品製造業（経営者）	・来年度には注文が出てくる予定であるが、5月後半以降となる。中東情勢の変化による影響は不透明であるが、石油関連のアクリル等は既に値上げとなっている。
□	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の変化で原油価格が上昇している。主な材料や副資材の価格上昇のほか、人件費の上昇などのコストアップ要因が増えているが、製品価格に転嫁できるまでには時間が掛かる。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いなどは増えているが、中東情勢の影響で為替が大幅に変動し、見積り条件が不安定なほか、納期までに価格が上昇する可能性もある。それに伴い、取引先も発注をためらう傾向があるため、先行きの予想は難しい。
□	一般機械器具製造業（設計担当）	・収支バランスで考えると、収入以上に支出が増えれば、後で景気が下向くことになる。支出を見直せば、賃金の増加とも帳尻が合い、景気が悪化することはないが、現時点で3か月以上先の状況は不透明である。
□	電気機械器具製造業（経理担当）	・原材料価格の急上昇により、設備投資を抑制する動きにつながる。原油価格の高騰は、単にガソリンだけではなく、あらゆる石油関連製品に波及するため、影響は見通せない。
□	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・世界情勢が不安定で、先行きの不透明感が増している。
□	建設業（経営者）	・中東情勢の変化により、建設資材価格の高騰や品不足、納期の不安定化などの問題が発生するおそれがある。
□	建設業（経営者）	・売上の増加と、材料価格の高騰による悪影響が相殺し合い、全体としては変わらないと予想される。
□	輸送業（経営者）	・運賃の値上げ交渉は前進していない。さらに、取引先はそれどころではないほど、経費の上昇が進んでいる。
□	輸送業（サービス担当）	・イラン情勢次第であるが、原油価格の上昇への不安は続くため、燃料費などの経費が増加する懸念は消えない。
□	金融業（営業担当）	・平均すれば売上は前年と変わらないほか、固定費が徐々に増えても、取引先との価格交渉に変化はない。
□	金融業（営業担当）	・取引先の話では、今後の受注状況について、特に大きな案件はなさそうである。
□	金融業〔投資運用業〕（代表）	・中東問題に際しては、太陽光発電や風力発電の増加が、経済的に大きな負担になっていることへの認識も必要である。
□	広告代理店（営業担当）	・例年、期初の数か月は広告需要が減少する。
□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・この数か月、商品の動きが余り変わらず、停滞気味である。
▲	食料品製造業（従業員）	・世界情勢の変化で為替も大きく変動しており、輸入原料の多い当社製品には影響が徐々に出る。原料価格の改定を求める見積も少しずつ増えている。
▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・中東の海峡問題の影響を受け、取引先が減産を行うという情報がある。
▲	化学工業（管理担当）	・今後の世界情勢は不透明である。
▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・イラン情勢の変化による原油相場の高騰や、円安の継続による更なる物価上昇への不安がある。春闘で賃上げが進んでも、この情勢では実質賃金が前年割れとなる可能性が高く、全体として不確定要素が多いため、やや悪くなる。
▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	・4月から自転車の使用に係る規制が開始される。そのため、消費者による購入は慎重となるが、ガソリン価格の高騰で新規需要が発生する可能性もある。
▲	輸送業（商品管理担当）	・家具の配達量が落ちてくるため、売上は減少する。
▲	金融業〔保険〕（経営者）	・原油価格の上昇はしばらく続くと予想され、それによる物価の上昇は避けられない。その一方、販売価格への転嫁は難しい。
▲	広告代理店（管理担当）	・価格の高騰が止まらない。

	▲	司法書士	・中東情勢の先行きは予想しにくい、仮に問題が解決しても、破壊された施設もあるなど課題も多く、景気の悪化が心配される。
	▲	経営コンサルタント	・実際にコストアップが生じてくると、売行きが鈍化し、仕入れや取引を控える会社が増える。
	▲	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・中東の原油問題で、材料費が4月から現在の1.7倍に上がる。
	▲	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・中東情勢の影響を受け、原油価格の高騰による更なる物価上昇が懸念されるなか、生活必需品以外については、少なからず買い控えが発生する。
	×	繊維工業（団体職員）	・重油の値上げが進む。
	×	化学工業（経営者）	・運送コストの増加や原材料の値上げにより、更なる需要の減少が見込まれる。
	×	金属製品製造業（製造担当）	・今までも厳しい状況であったが、石油問題などで建築業界の状況は更に悪くなる。
	×	電気機械器具製造業（営業担当）	・材料が入手しにくくなっている。
	×	建設業（経営者）	・中東情勢の影響が長期化すれば、エネルギー危機の懸念が出てくるほか、大型の長期案件では資材価格の高騰や調達面の不安もあり、契約にはちゅうちょせざるを得ない。
	×	通信業（管理担当）	・原油相場の高騰に伴う物価の上昇で、最悪の状況となる。
	×	不動産業（営業担当）	・景気が悪化しており、今後も悪くなる。
	×	その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・中東の政情不安により原油価格が高騰するリスクに加え、円安も進んでいることから、今後は更なる原材料価格の上昇と、消費者による買い控えが進む。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・ますますエネルギー価格が高騰し、世界的な経済の混乱につながる。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	・自社の賃金のベースアップに連動して、派遣料金を改定する企業は増加傾向にあるものの、上げ幅自体は限定的である。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・2028年卒採用のインターンシップの広報が好調となるが、夏に注力する分、秋以降の広報が前年よりも落ち着くとの見方もある。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・石油価格の上昇が落ち着くかどうかにより左右される。
	□	人材派遣会社（支店長）	・大型案件もなく、余り大きくは変わらない。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・世界情勢の不安定な状態は、2～3か月後には終結しているか、終結に近づくと予想される。
	□	職業安定所（職員）	・人手不足による人件費の上昇が定着し、中小企業にとっては、仕事はあるが利益の出ない状況が常態化している。
	□	職業安定所（職員）	・国際情勢の先行きが懸念されるものの、現時点で大きな動きはみられない。
	□	職業安定所（職員）	・物価の上昇や人件費の負担増による悪影響もあるが、人材確保のための求人の動きもあるため、大きくは変わらない。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・現状から大きく変わる要素が見当たらない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・食料品に対する消費税の廃止や責任ある積極財政のほか、診療報酬の改定が医療業界の賃金に好影響を与える期待はあるが、イラン情勢の変化で吹き飛ばす不安もある。事態の早期解決が望まれる一方、医療福祉業界では人手不足が続いているため、新卒求人が大幅に減ることはない。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・年度末にかけて大企業を中心に人員整理が予定されており、求職者の動向が注目される。また、イラン情勢の変化による影響も具体化することから、今後の動向には注意が必要となる。
	▲	人材派遣会社（役員）	・中東情勢は不透明であるが、求人や求職者の動きへの影響はみられない。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・中東情勢の影響により、エネルギー価格や物価の上昇、物資の不足が予測される。それに伴い、全体的な景気の悪化が考えられる。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・イラン情勢の変化や物価上昇の影響で、関西企業が宣伝費やプロモーション費用の使用を控える動きがみられるため、宣伝予算は前年比での減少が予想される。

▲	職業安定所（職員）	・早期希望退職者を募集している企業もあり、求職者数が増加傾向となる。
▲	職業安定所（職員）	・例年の求人動向から判断すれば、4～5月は求職者の増加に伴い、有効求人倍率が低下する。現状の少ない求人数のまま推移すれば、例年よりも有効求人倍率が低下する見込みである。
▲	民間職業紹介機関（職員）	・例年、年度初めから梅雨明け時期までは、建設現場の稼働は低調となる。
▲	民間職業紹介機関（営業担当）	・繁忙期が終わって閑散期に入るため、やや悪くなる。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東問題が全ての国の原油確保を困難にしており、混乱が広がっている。現状、この状況がいつまで続く分からないため、景気はやや悪くなる傾向となる。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒求人において、採用者数の削減を検討している企業が増えている。
×	—	—